認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成２５年６月
中津川市（岐阜県）

全体総括

○計画期間;平成20年7月～平成25年3月（4年9月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

岐阜県中津川市の中心市街地活性化基本計画においては、市と商工会議所、商店街振興組合が同じ方向性・目的をもって協働で事業を推進していくことを基本に、中心市街地活性化協議会の構成員を中心とした事業別委員による事業部会を随時開催、定期的な事務局会議等を開催して情報共有を密接にし、事業を推進しております。

計画事業３３につきましては、完了６事業、実施中２３事業、停滞中３事業、未着手１事業となりました。市の実施するハード事業は各担当部署が実施しており、商工会議所や商店街が主体となって実施するソフト事業についても、取り組みの進捗状況は概ね予定どおり、それぞれの目標値達成に向かって邁進しています。特に、「中山道中津川宿六斎市」事業は、かつて江戸時代に開かれていた「市」の復活として毎月第１日曜日に定期的に開催し、中心市街地への入り込み客を増加（平成２４年度において六斎市のみの年間入り込み客数９３，０００人）させているのみでなく、「おもてなし事業」、「個店強化事業」、「まちなか緑化事業」などと組み合わせて行っており、商店街、地域の関係者の「やるき・本気・元気！」の向上につながっています。

こうした取り組みにより、以前と比べ商店街の街並みが美しくなり、個店の顧客対応が向上してまいりました。

全国的に中心市街地の衰退が進む中、計画事業の実施により中心市街地への流入人口の確保など効果を上げております。しかし、中心市街地共同住宅供給事業の停滞などにより、商店街居住人口が減少しており、中心市街地の現状が、道路が狭く駐車場が少ないなどの住環境が現在の生活スタイルに合わない事などで若者の中心市街地離れに繋がっている事がわかります。今後の大きな課題となります。

今後も引き続き関係者との連携を図りながら、地域全体としての魅力の向上のための景観や市街地の形成などを行い、多くの来訪者を迎え入れ、にぎわいとおもてなしの心で魅力ある商店街を形成して、中心市街地の活性化を図り「愛され、選ばれる中津川市」を目指します。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

①概ね順調に進捗・完了した　　②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

①かなり活性化が図られた

②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

全体的には、ハード事業、ソフト事業ともに計画に沿った実施がなされ、「中心市街地歩行者数」は目標を達成し、「商店街店舗数」も維持するなど成果が現れています。「観光客入込数」は、平成 23 年と平成 24 年はイベント開催日が荒天となったため目標達成には至っておりませんが、ほとんどのイベントで来場者は増加傾向となっています。目標を下回った「中心市街地居住人口」は、商店街中心市街地共同住宅供給事業の停滞が影響しました。また、新図書館建設事業中止に伴う旧ユニー跡地開発事業の計画変更も、全指標にマイナスの影響がありました。

3. 活性化が図られた（図られなかった）要因（中津川市としての見解）

中心市街地活性化基本計画に沿った「六斎市」等の事業により、中心市街地へ訪れる人を増加させることはできましたが、そうした人たちをリピーターにして、イベント開催のない平時でも市街地に来ていただく必要があります。平時の顧客獲得には、イベント等での来場者に対し個店のアピールが必要となりますが、イベント時に各個店が、イベントに労力が割かれてしまい、各店舗での顧客対応が十分にできない状況も、顧客獲得が進まなかった原因と考えられます。「おもてなし事業」による個店強化により、来場者が個店の接客に対し好感がもてるとの意見も多く寄せられており、こうした取り組みを引き続き行っていくことが重要と考えております。「中心市街地居住人口」を増加させるための住環境の整備につきましては、現状では難しいため、商工団体や地域住民と協力し有効な施策を模索していきます。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて（協議会としての意見）

【活性化状況】

①かなり活性化が図られた

②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

中心市街地について、有識者、商工団体、地元住民、行政が一体となって取り組み、それぞれの視点から見た問題を洗い出し、対処法の検討などを行ったことで、商店街の活性化に対する意識の高揚を図ることができました。今後も、一体となった取り組みを継続していきたいと考えております。

5. 市民からの評価、市民意識の変化

①かなり活性化が図られた

②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

六斎市の定期的な開催により、今まで中心市街地に来る機会がなかった人たちが、足を運んでいただいています。小さな子供を連れた若い親の姿も多くみられ、幅広い年代層に周知されていることがわかります。しかし、日常的に中心市街地で買い物をすることにまで結びついていないのが現状となっています。

6．今後の取組

六斎市等のイベントを継続的に開催することは、中心市街地に訪れる人の増加を図り、活性化に繋げるきっかけづくりができたと考えられます。基本計画の期間は終了しましたが、市にとって中心市街地活性化策は引き続き重要施策であることから、基本計画で得られた経験を基に、引き続き計画を策定し、活性化に繋げていきたいと考えています。

（参考）

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				（数値）	（年月）	
自らが誇れるまちの創出	観光客入込数	324,300人（H18）	360,000人	233,000人	H24	C
快適に暮らすことのできる市街地の形成	中心市街地居住人口	3,310人（H19）	3,400人	3,070人	H24.3	c
商業活性化の推進	中心市街地歩行者数	4,056人（H19）	4,630人	4,708人	H24	A
	商店街店舗数	130店舗（H19）	135店舗	130	H25.3	b

注）達成状況欄　（注：小文字のａ、ｂ、ｃは下線を引いて下さい）

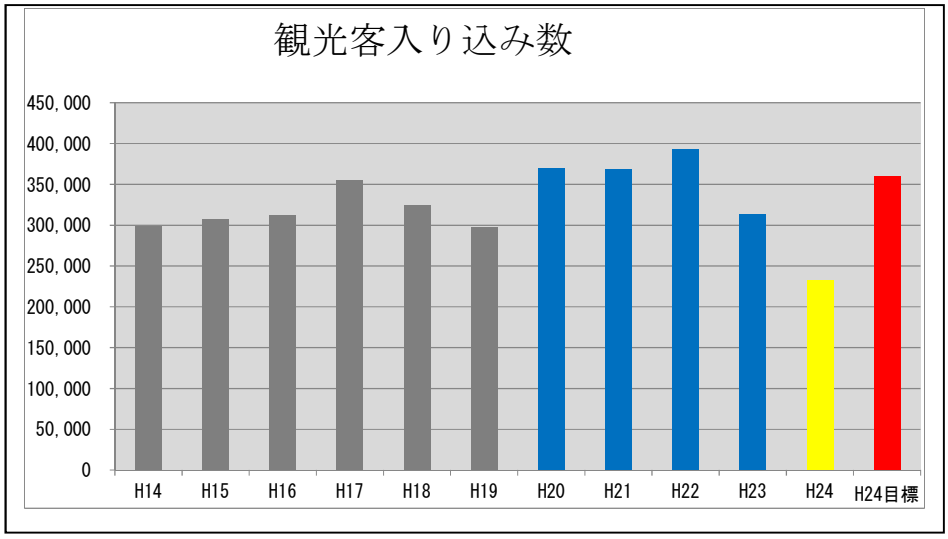
A（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。）
a（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。）
B（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。）
b（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。）
C（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。）
c（計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。）

個別目標

目標「自らが誇れるまちの創出」

「観光客入り込み数」※目標設定の考え方基本計画 P44～P46 参照

１．目標達成状況の総括



年	（単位：人）
H18	324,300 （基準年値）
H19	297,600
H20	369,300
H21	368,300
H22	392,300
H23	313,300
H24	233,000
H24	360,000 （目標　）

※調査方法；中心市街地内の公開施設及び各イベント等への入り込み客数の年間合計数

※調査月；毎年３月末

※調査主体；中津川市

※調査対象；「春・秋の中山道まつり」・「イルミネーションＩＮ中津川」・「春・秋のＪＲさわやかウォーキング」
・「ウインドギャラリー展」・「おいでん祭」・「ギオンバジャンボリー」・「西宮神社例祭、十日えびす」
・「中山道歴史資料館」・「旧脇本陣森家」・「旧中津川村庄屋肥田家」・「中山道中津川宿六斎市」

【総括】

六斎市を毎月第一日曜日に定例で開催することにより、毎月中心市街地に人を呼び込むことができています。加えて、中山道歴史資料館、旧脇本陣森家など観光拠点を六斎市と結びつけることにより、市外からの集客にもつながっています。そのほかのイベントについても、毎年開催することにより定着してきており、集客効果は高くなっていますが、屋外開催のイベントがほとんどのため、荒天による中止や縮小により、指標の数値は不安定となりました。

２．目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①．旧中津川村庄屋肥田家保存公開事業（中津川市）

支援措置名及び支援期間	未着手 未着手
事業開始・完了時期	未着手
事業概要	旧中津川村庄屋肥田家を一般に公開することを計画する。
目標値・最新値	【目標値】5,700 人　【最新値】0 人
達成状況	未達成

達成した（出来なかった）理由	中山道中津川宿における肥田家は歴史的・文化的に最も価値の高い建築物なので地権者との話し合いの結果、一部公開が可能となり、平成２１年度まで観光客を集客することができました。しかし、平成 22 年度以降は、所有者（地権者）の事情により継続的な公開は困難となりました。
計画終了後の状況（事業効果）	－
事業の今後について	貴重な観光資源なため、土地・建物の取得を視野に入れて今後も協議していく必要があります。

②. 中山道中津川宿六斎市事業（六斎市実行委員会）

支援措置名及び支援期間	岐阜県中心市街地活性化総合支援事業費補助金 平成 20 年度～平成 24 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～
事業概要	江戸時代の復刻版「六斎市」として、中心市街地内で特産品の販売や、地産地消の「おはよう朝市」、各商店での特売やタイムサービス、出店者による物産展、郷土芸能披露や各種イベントに加えて情報提供の場としての活用など、人・物・情報の総合的な「市」として開催しています。
目標値・最新値	【目標値】30,000 人 【最新値】93,000 人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	六斎市は、天候により来場者の増減はありますが、荒天でなければ毎月市内外から１万人程度の来場があり定着してきております。各種ソフト事業との組み合わせによる相乗効果も高く、中心市街地への来訪者が増加しました。
計画終了後の状況（事業効果）	市民が、中心市街地へ足を運ぶ機会が増加しました。
事業の今後について	今後も継続する方針で、中山道など歴史的資産を活用することにより、市外からの来訪者も増加させ、中心市街地への流入人口を増加させます。

３.今後について

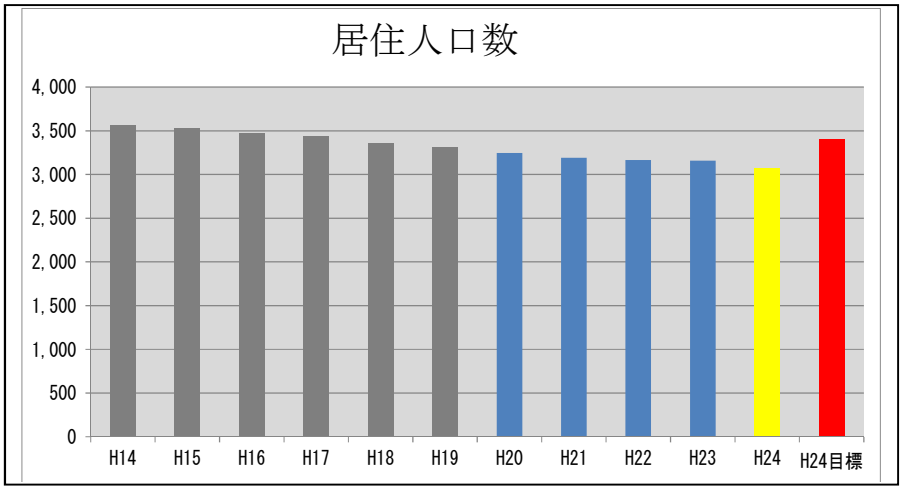
中心市街地への集客として、大きな効果をあげているイベント、及び、市外からの集客に効果のある観光施設の活用は、中山道という歴史的資産の活用による活性化策として、今後よりブラッシュアップして推進していきたいと考えています。なお、各イベントについては、中心市街地の商店のみなさんが運営に労力を割かなくて良い方法を検討し、できるだけ各商店の顧客対応にあたれるように工夫していきます。

個別目標

目標「快適に暮らすことができる市街地の形成」

「居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P47～P48 参照

１．目標達成状況の総括



年	（単位：人）
H19	3,310 （基準年値）
H20	3,270
H21	3,189
H22	3,167
H23	3,158
H24	3,070
H24	3,400 （目標　）

※調査方法；

※調査月；毎年４月１日

※調査主体；中津川市

※調査対象；住民基本台帳による中心市街地区域内の人口数

【総括】

現在の地方都市では、移動手段として自動車の使用が不可欠であり、こうしたスタイルに、中心市街地の居住環境（道が狭い、駐車スペースが無い等）がマッチしていない状況を改善することは難しいため、共同住宅の供給により居住人口の増加を図る計画でしたが、民間業者の計画中止や経済状況の悪化により事業が進みませんでした。

２．目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①．中心市街地共同住宅供給事業（中津川市）

支援措置名及び支援期間	未着手 未着手
事業開始・完了時期	未着手
事業概要	民間事業者が共同住宅を中心市街地に供給することにより、人口の増加と歩行者数の増加、さらには、その居住者による中心市街地での購買行動の増加を図ります。
目標値・最新値	【目標値】255 人　【最新値】0 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	当初計画されていた民間事業者による共同住宅を含む複合ビル建設事業計画が中止になったうえ、さらに追い打ちをかけるような経済情勢の悪化で市の財政状況にも影響があり支援制度の創設ができませんでした。

計画終了後の状況（事業効果）	－
事業の今後について	現状では、事業を進めることは難しくなっています。

３.今後について

当初の計画であった複合ビルの建設計画が中止となったため、当市における共同住宅供給事業の制度創設ができませんでした。

また、中心市街地内の空き家情報の収集、空き家を活用したまちなか居住の可能性を探る取り組み等を検討しましたが、経済状況の悪化により有効な施策が構築できていません。

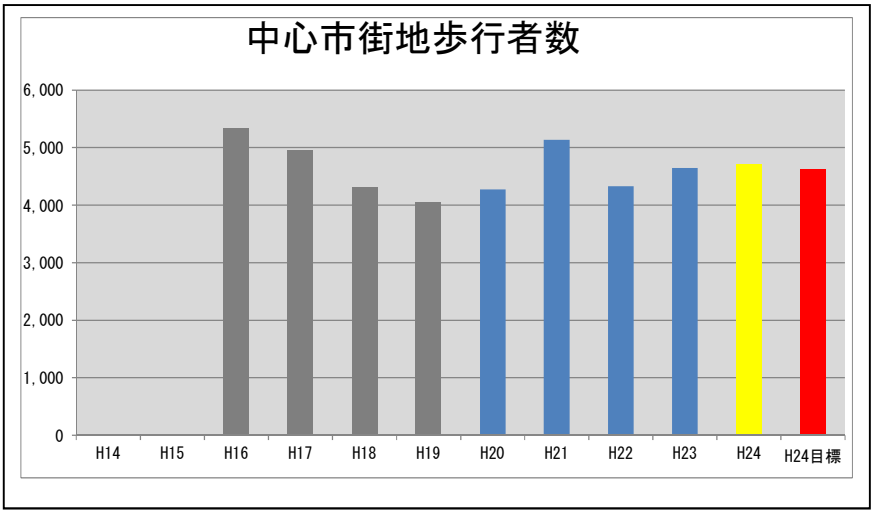
今後、中心市街地の空洞化を防ぐため、関係団体と連携を図り新たな施策を模索していきます。

個別目標

目標「商業活性化の推進」

「中心市街地の歩行者数」※目標設定の考え方基本計画 P48～P52 参照

１．目標達成状況の総括



年	（単位：人）
H19	4,056 （基準年値）
H20	4,273
H21	5,137
H22	4,329
H23	4,647
H24	4,708
H24	4,630 （目標　）

※調査方法；実質測定値

※調査月；毎年９月末（平日）

※調査主体；中津川市

※調査対象；中心市街地内指定の５ヶ所での歩行者数

【総括】

中心市街地の歩行者数は、市営駐車場の２時間無料化などにより利便性が向上したことや、毎月の六斎市などの市街地でのイベント開催による効果、おもてなし運動など個店の強化などにより歩行者の増加につながりました。

２．目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①．市営駐車場改修事業（中津川市）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金事業 【済】平成２１年度
事業開始・完了時期	平成 21 年度
事業概要	建設後３０年の自走式立体駐車場の耐震補強やリニューアルを実施。
目標値・最新値	【目標値】312 人（往復 624 人）　【最新値】217 人（往復 434 人）
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	平成２１年度耐震補強及びリニューアル工事を実施し、安全で利用しやすい駐車場として整備が完了しました。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 22 年度の１か月あたりの利用台数は増加しており、中心市街地への来訪者の増加に寄与していると考えます。
事業の今後について	駐車場の利用台数は、平成２２年度以降毎年増加しており、更なる利便性の向上により利用者の増加を図ってまいります。

②. 旧ユニー跡地開発事業（中津川市）

支援措置名及び支援期間	－
事業開始・完了時期	－
事業概要	旧ユニー跡地を利用した新図書館の建設が中止となったため、中山道中津川六斎市事業の強化により歩行者通行量の増加を図っていきます。
目標値・最新値	【目標値】94 人（往復 188）　【最新値】△68 人（△136 人）
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	旧ユニー跡地に建設を予定していた新図書館が、事業中止となったため達成できなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	－
事業の今後について	中山道中津川六斎市事業は、市内への周知が行き渡り来訪者が増加している状況となっています。今後は、中山道の歴史的資産の活用により、市外からの誘客にも努め、歩行者通行量の増加を図ってまいります。

③.「にぎわいプラザ」利活用促進事業（中津川市）

支援措置名及び支援期間	－
事業開始・完了時期	平成 20 年度～
事業概要	駅前に立地する「にぎわいプラザ」を、まちなかの回遊性を向上させるための拠点とするため、より多くの市民や観光客の利用促進を図ってまいります。
目標値・最新値	【目標値】166 人（往復 332 人）　【最新値】187 人（374 人）
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	「中津川市にぎわいプラザにぎわいアップ検討委員会」を定期的に開催し、各階ごとの活用等、利活用促進の方策について検討しています。平成 23 年度は、1 階に観光交流センターを整備し、コミュニティホールを移設しました。また、平成 22 年度に設置した「コミニュティオフィス」の入居者選考にあたり、利用者の増加につながる団体を入居させることができました。
計画終了後の状況（事業効果）	にぎわいプラザの利用について、市民や企業、近隣の市町村の住民にも周知されたことにより、利用者数が増加傾向にあります。
事業の今後について	今後も、他の階の利用方法の見直し・検討を行なって利活用を促進させ、中心市街地の活性化を図ってまいります。

３.今後について

中津川市のまちなかに立地する市営駐車場を、平成２１年度に耐震補強、及び、リニューアルし、利用料金を最初の２時間無料としたことで、商店街利用者の利便性が向上しました。

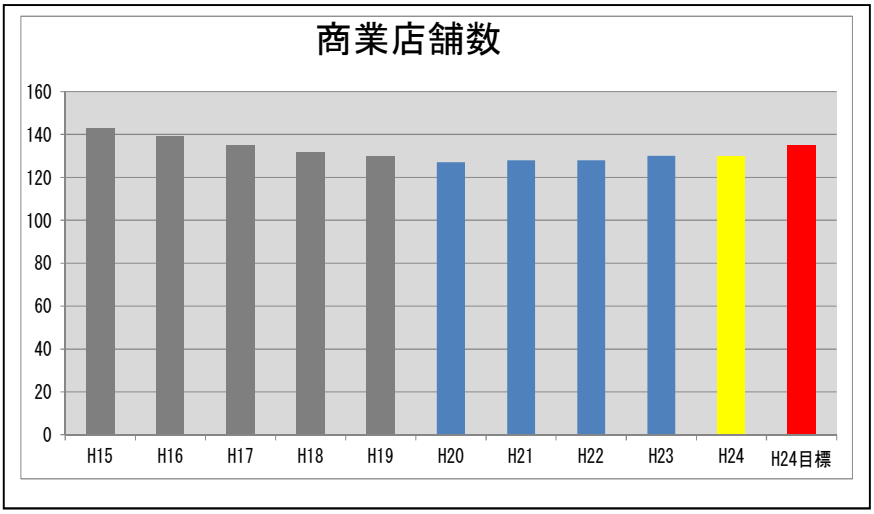
各種イベントや、公共施設、観光施設の強化とあわせ、「個店強化事業」や「おもてなし事業」、「一店逸品フェア」等の推進により、リピーターを増加させ、中心市街地に経常的な人の往来をつくる施策を推進してまいります。

個別目標

目標「商業活性化の推進」

「商業店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P52～P53 参照

１．目標達成状況の総括



年	（単位：人）
H19	130 （基準年値）
H20	127
H21	128
H22	128
H23	130
H24	130
H24	135 （目標　）

※調査方法；中心市街地内の４振興組合と４発展会より調査書の提出

※調査月；毎年３月末

※調査主体；中津川市・中津川商工会議所

※調査対象；中心市街地内の４振興組合と４発展会の商業店舗数

【総括】

既存空店舗の紹介や、家賃低減策等により新規参入店舗を増加させ、個店強化策の実施により中心市街地を、活気あふれる街にすることを目指したが、家賃低減策が進まなかったことなどにより、目標店舗数を達成できませんでした。

２．目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①．空き店舗対策事業（中津川商工会議所・中津川市商業振興連盟）

支援措置名及び支援期間	－
事業開始・完了時期	【実施中】平成２０年度～
事業概要	商店街にある空き店舗情報を一元管理し、ホームページ等で外部に対しＰＲするとともに、各商店街の空き店舗における商店街のコンセプトにマッチした事業者の募集、若者等のチャレンジショップに対する店舗改修・店舗賃借料等の支援により、商店の誘致を図ってまいります。
目標値・最新値	【目標値】10 店舗増加　【最新値】12 店舗
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	平成 22 年度実施した空き家及び空き店舗調査結果を活用して、商工会議所や商店街連合会と協力し、出店希望者とのマッチングを図ることができました。

計画終了後の状況（事業効果）	平成２３年９月、西太田町通り商店街の空き店舗を利用して「まちなかステーション『ねこのて』」が開設され、まちなかの子育て支援の中核施設として機能しています。また、店舗数減少を最小限に食い止めました。
事業の今後について	引き続き情報収集を行い、マッチングに努めていきます。

②. 個店強化事業・流通ポイント事業（中津川市商業協同組合）

支援措置名及び支援期間	－
事業開始・完了時期	－
事業概要	個店強化のためのセミナーを開催し、一店逸品の推進など個店の強化を行います。また、中津川市共通商品券と商品購入等に添付するポイント制度を融合し、ボランティア活動や公共施設の利用料金等におけるポイントの付与や支払い等を検討し、商店街での積極的な活用を構築します。
目標値・最新値	【目標値】5 店舗減少　【最新値】12 店舗減少
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	個店強化のためのセミナーを開催し、それぞれの店舗で独自の商品やサービスを提供できるよう推進を行った。そうした取り組みにより、顧客を獲得できるようになった個店が増加している。 中心市街地の各商店街での購買活動が活発となることで、商店街のにぎわいが再生し、販売額が増加することから、商店数の増加を図ることができる事業として計画案を提示したが、昨今のポイント制度の運営問題や地域性、区域、予算等の関係で商店街として取り組む意欲は薄く、事業構築ができていない状況です。
計画終了後の状況（事業効果）	独自の商品、サービスへの意識が向上した店舗が増えてきたが、流通ポイントなどテコ入れができなかった事から減少の抑制ができなかった。
事業の今後について	引き続き個店強化を図るとともに、他市のポイント制度の情勢等を見極めて、再度検討を行います。

３.今後について

「商業店舗数」については、空き店舗情報の提供によって新規参入を促進するとともに、個店強化事業により既存商業者の魅力を図っていきます。

また、「流通ポイント事業」については、全市の商業者が一体となることができる方策を探る必要があります。市が交付する補助金とポイント制の融合、他の自治体・商店街等で実施されているポイント制度や地域通貨制度について研究し、応用の可否について検討していきます。